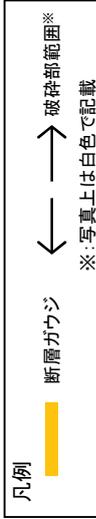


- ・深度8.41～8.43mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらことからカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度8.43～8.44mの「粘土状破碎部(Hc-1)」と記載の箇所については、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度8.44～9.68mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度9.68～9.70mの「粘土質礫状破碎部(Hb)」と記載の箇所については、軟質であるが、幅が膨縮し直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

破碎部性状の記事

- 8.41～9.70m：破碎部(K断層)
- 8.41～8.43m：粘土混じり礫状破碎部(Hj)
上端5～20°、下端30°で前者は湾曲、後者は波打ちながら連続。区間全体のコアが粘土化し軟化している。赤褐色を呈する。幅20～25mm。
- 8.43～8.44m：粘土状破碎部(Hc-1)
上端下端とも30°で、前者は波打ち、後者は直線的でシャープに連続。径1mmの石英粒をわずかに含む。上位側は白色、下位側は淡褐色を呈する。幅10mm。
- 8.44～9.68m：粘土混じり礫状破碎部(Hj)
コア全体が粘土化し軟化しているものが多いが、8.75mに40°幅2mmの白色粘土脈、8.94mに54°幅2～7mmの灰赤色粘土脈、9.10mに53°幅1～4mmの褐色粘土脈、9.18mに54°の暗褐色風化割れ目など直線的でシャープなせん断割れ目が残留している。
- 9.68～9.70m：粘土質礫状破碎部(Hb)
上端25°で直線的にシャープに連続。下端30°で直線的であるが幅が膨縮して連続。径1～2mmの石英粒のみを含む。橙色を呈する。幅1～2cm。

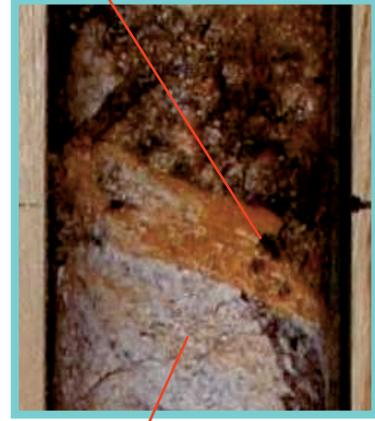
コア写真



深度8.43～8.44mの連続性及び直線性が良い粘土



細粒部が網目状に分布する



直線性に乏しい粘土

細粒部が網目状に分布する

- ・ボーリングコア観察において、深度8.44mに断層面 α が認められる。
- ・断層面 α は、湾曲及び凹凸が少なく、直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。

コア写真

※断層面 α は最新活動面



湾曲及び凹凸が少なく、不連続部が認められない

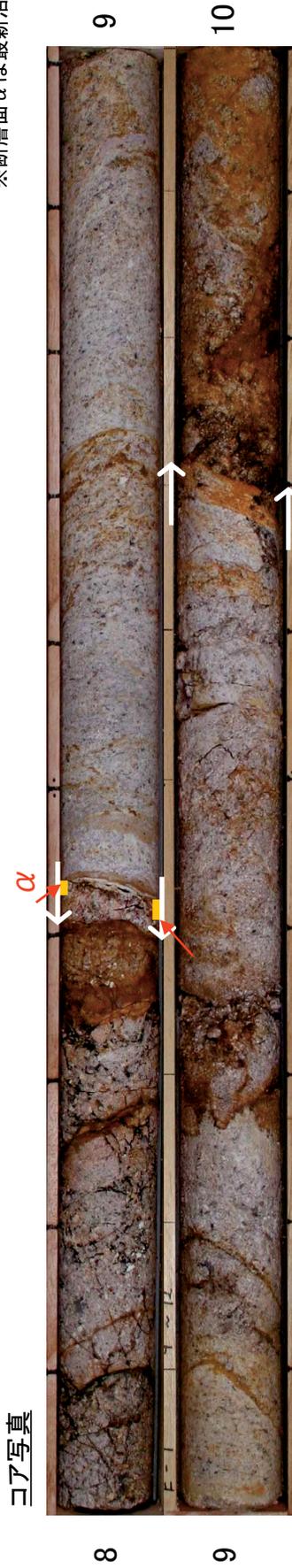
破碎部性状の記事

- 8.41～9.70m: 破碎部(K断層)
- 8.41～8.43m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj) 上端5～20°、下端30°で前者は湾曲、後者は波打ちながら連続。区間全体のコアが粘土化し軟化している。赤褐色を呈する。幅20～25mm。
- 8.43～8.44m: 粘土状破碎部(Hc-1) 上端下端ともに30°で、前者は波打ち、後者は直線的でシャープに連続。径1mmの石英粒をわずかに含む。上位側は白色、下位側は淡褐色を呈する。幅10mm。
- 8.44～9.68m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj) コア全体が粘土化し軟化しているものが多いが、8.75mに40°幅2mmの白色粘土脈、8.94mに54°幅2～7mmの灰赤色粘土脈、9.10mに53°幅1～4mmの褐色粘土脈、9.18mに54°の暗褐色風化割れ目など直線的でシャープなせん断割れ目が残留している。
- 9.68～9.70m: 粘土質礫状破碎部(Hb) 上端25°で直線的にシャープに連続、下端30°で直線的であるが幅が膨縮して連続。径1～2mmの石英粒のみを含む。橙色を呈する。幅1～2cm。



・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

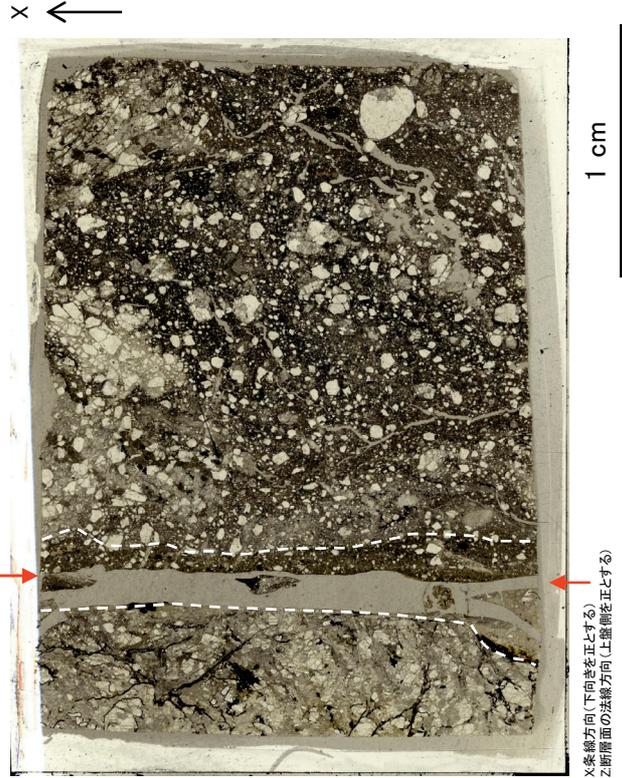
※断層面 α は最新活動面



薄片作製位置写真

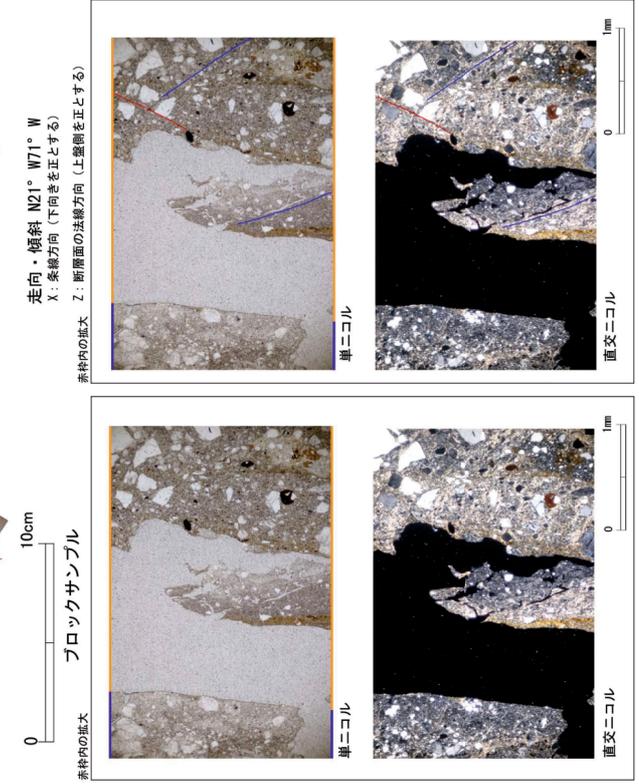
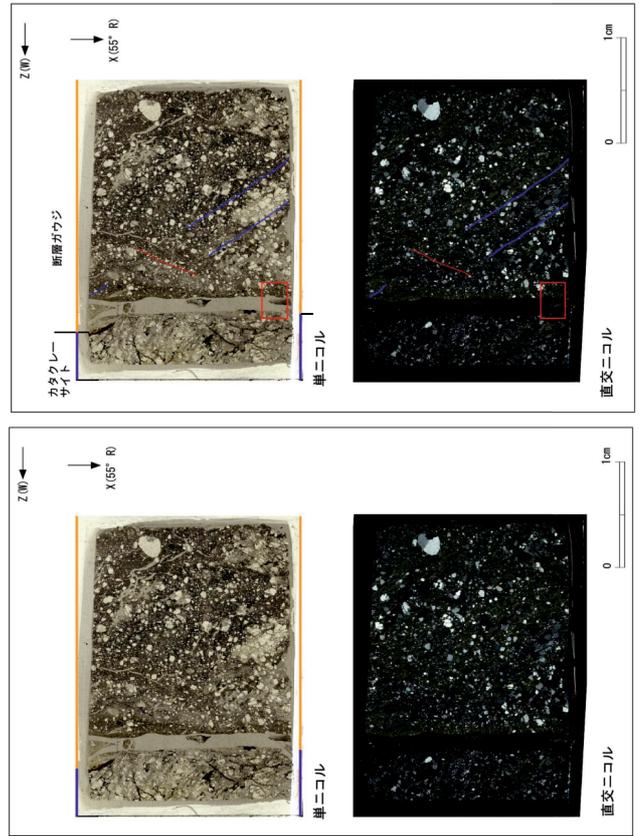
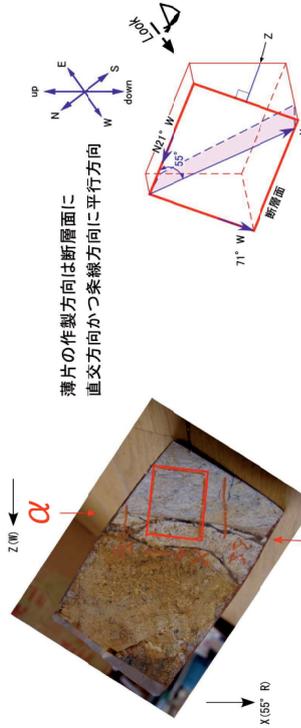
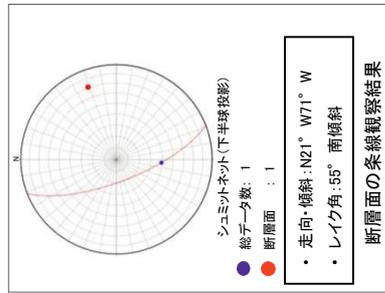


薄片全景写真(単ニコル)



- ・H24-E-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、右ずれを伴う逆断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
 - 岩片は少ない。

※断層面 α は最新活動面

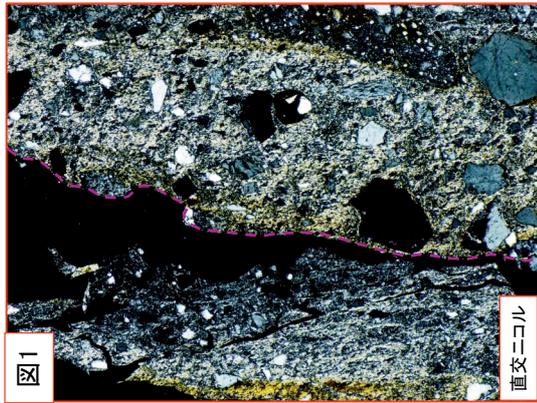
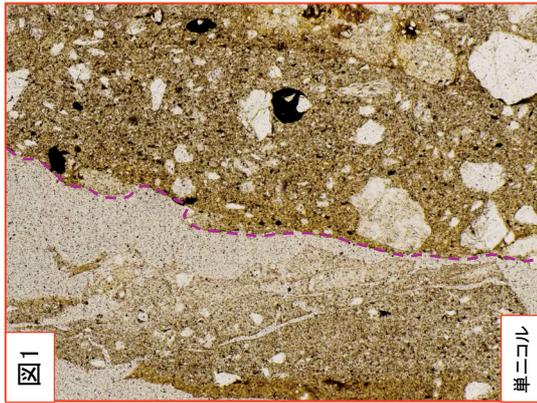
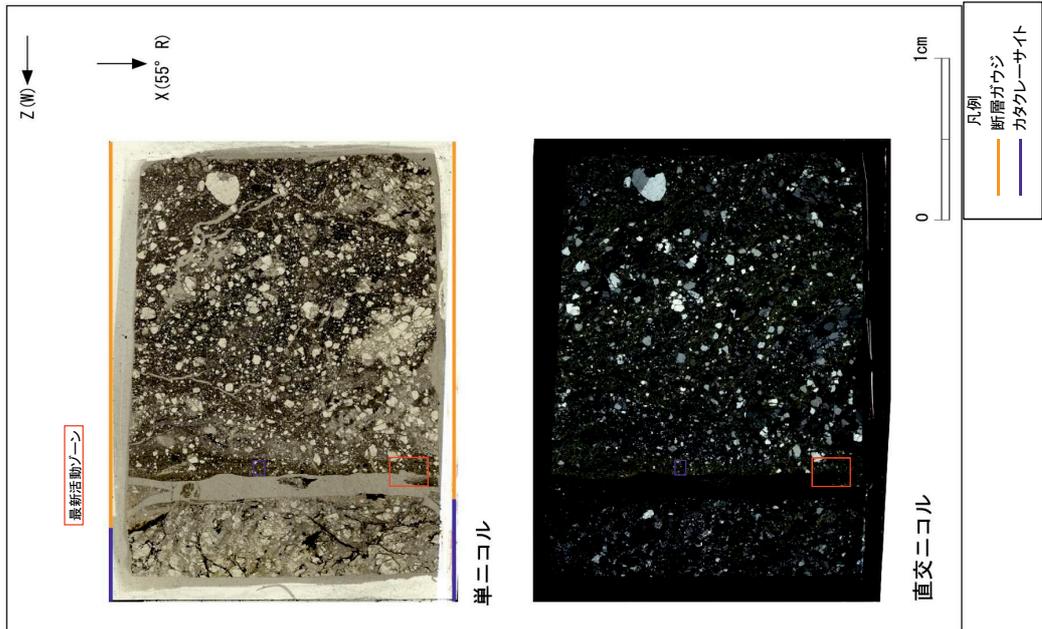


凡例

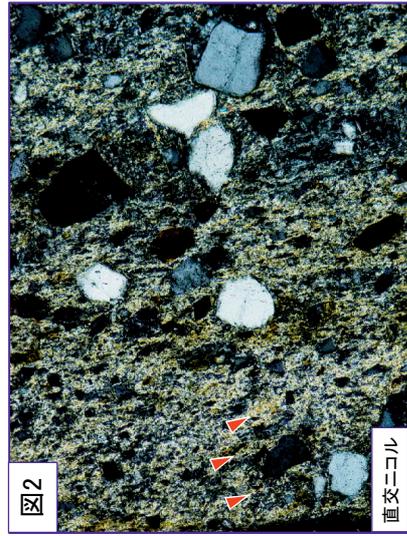
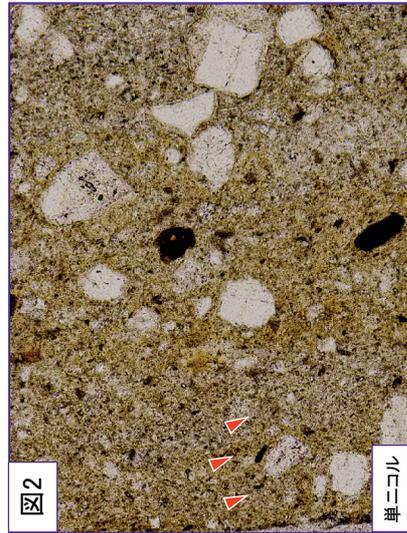
断層ガウジ	カタクレサイト	R1面	P面
-------	---------	-----	----

第7.4.4.403図 (4) K断層 破碎部性状 H24-E-1 深度8.41~9.70m (変位セシス, 薄片観察による断層区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

(肉眼観察結果 深度8.44m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

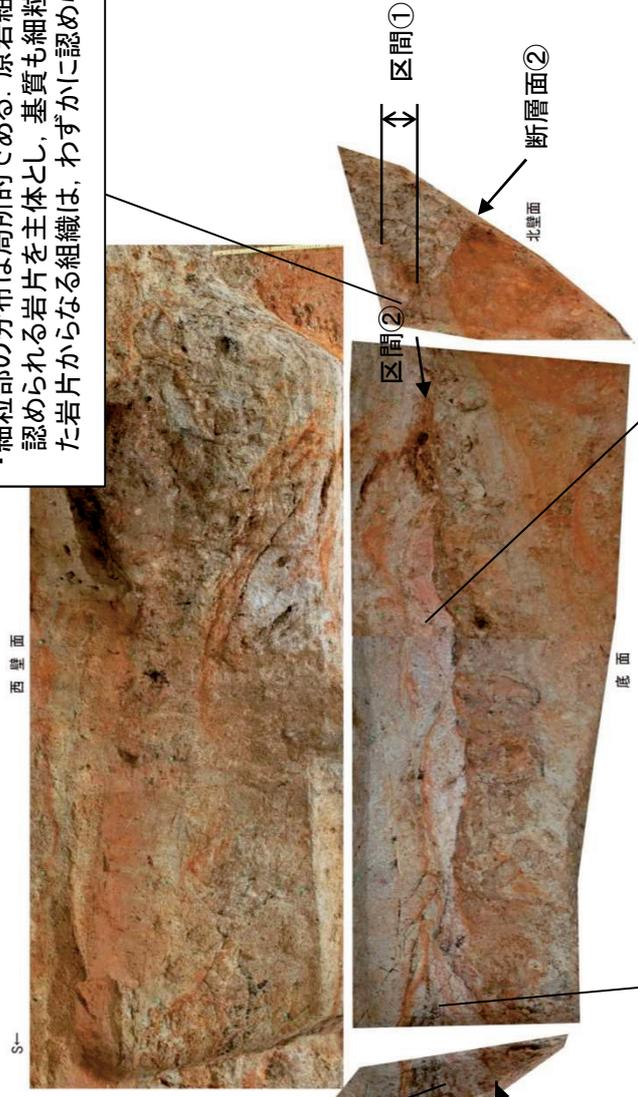
- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	1.0	有

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・区間①に対応する「Hj」との記載については、シルト質砂状～砂質シルト状を呈するものである。軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

Lカットピット写真

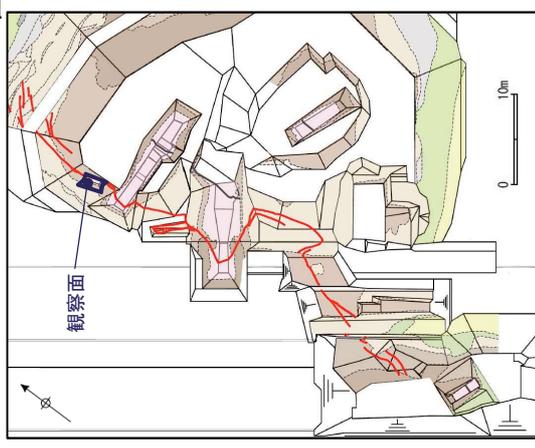


H-1: 変質したカタクレーサイト, Hj
 ・灰白色 (7.5YR8/2)～淡橙色 (5YR8/4)
 ・砂質シルト状, 全体的に軟質である。
 ・細粒部の分布は局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。

H-1: 変質したカタクレーサイト, Hj
 ・灰白色 (7.5YR8/2)～淡橙色 (5YR8/4)
 ・砂質シルト状, 全体的に軟質である。
 ・細粒部の分布は局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。

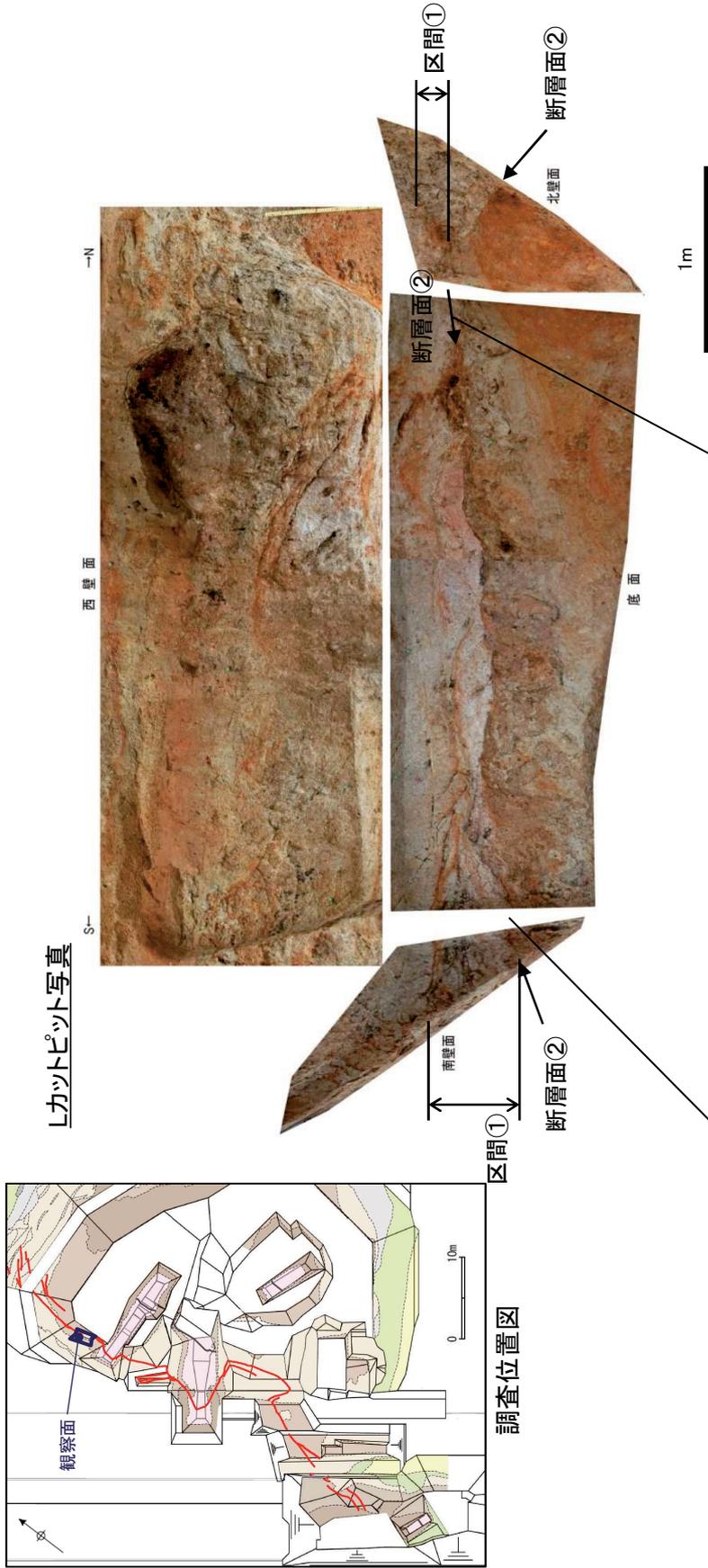
H-1: 変質したカタクレーサイト, Hj
 ・灰白色 (7.5YR8/2)～淡橙色 (5YR8/4)
 ・シルト質砂状～砂質シルト状。
 ・全体的に軟質である。
 ・細粒部の分布は、局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。

H-1: 変質したカタクレーサイト, Hj
 ・灰白色 (7.5YR8/2)～淡橙色 (5YR8/4)
 ・砂質シルト状, 全体的に軟質である。
 ・細粒部の分布は、局所的である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は、わずかに認められる。



調査位置図

断層面②に対応する「Hc-1」との記載については、粘土状を呈するものは、粘土状を呈するものである。軟質であり、細粒部はせん断面に沿って断続的に連続して分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。



S-1: せん断面. 淡橙色粘土. 幅1~3mm. Hc-1
 ・基盤岩と堆積岩の境界に分布する. 細粒部がせん断面に沿って断続的に分布する.
 ・断層ガウジ.
 ・細粒部は軟質であり、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

S-1: せん断面. 灰白~褐色粘土. 幅1~3mm. Hc-1
 ・基盤岩と堆積岩の境界に分布する. 細粒部がせん断面に沿って断続的に分布する. 断層ガウジ.
 ・細粒部は軟質であり、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。